

冬牡丹

荻江

全詞章

荻江節

本名題「末広冬牡丹」(すゑひろふゆぼたん)

作詞者・作曲者・初演年不詳

〔二上り〕 冬木立、わきて梢も色変へぬ松は千歳と、ゆや御前

衣紋繕ふ姿かも、縫ふてふ袖の振り合はせ、他生の縁をむすぶの神様と祈るも君の恋風、
花のあたりをゑ

よぎて吹けかし風だにも、匂ひほしきよ、六つの花つもりし思ひを我が夫にしらせたいとは
おもへども、人目の関のつらかりし

おらがおもむすを褒むるぢやないが

琴も鳴りそろ、胡弓三味線打ち囃し

舞はお家の武士も腰をぬかすは恋盛り、しなものの目にまよふて、われらもちづくり心が

有明の、月雪花の娘、くどくはいやましの思ひ草

夫のためにとて天神様へ願かけて

梅を絶ちます迷惑、さあ哀れ一代絶ちます迷惑、梅を梅を絶ちます迷惑、さあ哀れ一代、
なごしやうか、どしよかいな、かわゆがらんせこちの人

万代までも天下泰平国土安穩、この所久しかれとぞ祝ひ祝ひ

舞納めたる末広の、末広の

開くや花の冬牡丹